

中学校区で、中学校配置の学力向上特配を小学校で活用している例

校名	太田市立強戸小学校									太田市立強戸中学校				
学級数	学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	学年	1	2	3	特支
	学級数	2	3	3	3	2	3	1	17	学級数	3	2	2	2
特配 教員 活用 状況	A教諭（強戸中置籍 週19.4時間）													
	○6年理科（3時間×3学級）担当 ○火・水・金曜日の午前中（2～4校時）に授業を行う。 ○小中連携コーディネーターとして、小6と中1の交流事業設営など積極的に中1ギャップ解消や中学校理解を推進する。									○1年数学TT（2時間×3学級） ○1年理科TT（1時間×3学級） ○1年総合(1.4時間) ○1学年主任、小中連携コーディネーター				
教科 担当制	○5, 6年で国語、算数を教科担当制とし、特に算数は習熟度別少人数指導を数学免許所有者により行う。													
成果	○理科の専門教員による発展的な実験などにより、児童の理科学習に対する好奇心、向上心が高まった。 ○実際に中学校で指導をしている教員の中学校生活に関わる話なので、興味をもって聞くことができ、中学校生活に対する関心、進学に向けての意欲が高まっている。 ○中学校の教員と話し合う機会が増え、中学進学までに身に付けさせたい力を明確にできたので、6年生の各時期に何を重視するか明確にして指導を行えた。													
課題	○各校の学校行事などによって、授業変更をしなければならないことが起きる。 ○標準時数の確保に細心の注意を払う必要がある。授業変更については、計画的に行うようにする。													

学力向上特配を活用して小学校で教科担当制を実施している例

校名	太田市立宝泉南小学校									
学級数	学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	
	学級数	2	2	2	1	2	2	1	12	
特配 教員 活用 状況	○4, 6年算数（5時間×3学級＝15時間）担当 ○4年副担として算数以外の教科のT2を5時間 ○若手教員の授業参観または授業参加（3時間） ・週によって学年を決めて、特配教員が算数を中心に（算数以外の教科も含めて）授業に入り、T2として（時にT1として）指導に当たる。授業後（放課後等）には、その授業について授業者とともに振り返りを行い、授業の推奨点、要検討点、それに対する改善案を一緒に話し合っている。校内指導主事的な立場で、若手の指導を行っている。 ○放課後や昼休みの補充指導（4～6年） ・単元テストで90点以下のとき、補充指導の上再テストを行う。 ○宿題をやってこなかった児童に対しての指導（休み時間に一緒に行う） ○4年副担									
教科 担当制	○5, 6年の担任4人で5, 6年の国語、社会、体育、図工、家庭の5教科を担当 ○教務主任が理科を担当 ○音楽主任が音楽を担当									
成果	○若手教員の授業力が向上し、授業中の様々な投げかけ等、特配教員の影響を感じる場面が多々ある。 ○学校規模が大きくないので、多くのクラスに入って指導力向上に寄与している。									